

2025 年 10 月 30 日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学
慶應義塾大学医学部

プライマリ・ケアの専門医が「意味」を感じる仕事は6項目に分類できる

日本のプライマリ・ケアの専門医に対するインタビュー調査により、専門医として仕事に「意味」を感じる経験を、多様な健康問題や複雑な背景を持つ患者への診療や、教育や地域社会への貢献など、6項目に分類しました。これらの経験は、プライマリ・ケア医のキャリア形成に役立つと期待されます。

少子高齢化社会における医療では、特定の臓器だけを診る専門医だけでなく、患者の全体を診る総合診療医（プライマリ・ケア医）の役割がますます重要になります。しかし、日本ではプライマリ・ケアが正式な専門領域として認められたのはごく最近であり、プライマリ・ケア医は、「専門性が曖昧」「ロールモデルが少ない」といった不安を抱えることがあります。

本研究では、このような不安を軽減するヒントとして、日本のプライマリ・ケア医がどのような経験に仕事の意味を感じているのかを明らかにするために、プライマリ・ケア医 14 人を対象に、仕事で「意味がある」と感じた経験についてインタビュー調査を行いました。その結果、プライマリ・ケア医が仕事に意味を感じる経験は、以下の 6 項目：①多様な健康問題に対応できること、②患者やその家族の困りごとに対して包括的にアプローチすること、③継続的な診療の中で、患者との信頼関係を築くこと、④他の医療専門職と協力して複雑な問題を抱える患者をサポートすること、⑤医学生や医療者への教育に貢献すること、⑥地域社会に貢献すること、に分類できることが分かりました。

これらの結果から、日本のプライマリ・ケア医は、さまざまな患者との関わりを通して自分たちの専門能力を高めたり、教育や地域社会への貢献を実感したりする経験をしたときに、仕事への意味を感じていることが明らかになりました。これらの経験は、プライマリ・ケア医が、より充実したキャリアを築くためのきっかけになると考えられます。

研究代表者

筑波大学 医学医療系

山本 由布 助教

春田 淳志 客員准教授（研究当時、現：慶應義塾大学医学部 医学教育統轄センター／総合診療教育センター 教授）

研究の背景

少子高齢化に伴い、日本の医療現場では多様な健康問題を抱える人が増えています。そのため、患者の全体を診る「総合診療医」（プライマリ・ケア医）の重要性が高まっており、2018年に専門医制度が始まりました。しかし、プライマリ・ケア医は幅広い役割を担う一方で、「専門性が曖昧」「ロールモデルが少ない」といったキャリアへの不安を抱える声も聞かれます。このような不安を軽減するヒントとして、プライマリ・ケア診療を継続する専門医の経験から、プライマリ・ケア医の意味・価値・やりがいを知ることが有効であると考えられます。

ポジティブな「仕事の意味」は、仕事への満足度や離職意向に大きく影響することが知られていますが、日本のプライマリ・ケア医が具体的にどのような経験に意味を見いだしているかは、これまで明らかになっていませんでした。そこで本研究は、日本のプライマリ・ケア医がどのような経験に「仕事の意味」を感じているのかを明らかにすることを目的としました。

研究内容と成果

本研究では、日本プライマリ・ケア連合学会が認定する「家庭医療専門医」もしくは「プライマリ・ケア認定医」の資格を持つ医師の中から、年齢・性別・地域などに偏りが生じないように14人を選んでインタビュー調査を実施し、これまでのキャリアや現在の仕事内容、そして「医師の仕事として、意味がある、価値がある、やりがいがある」と感じた経験について質問しました。

分析の結果、プライマリ・ケア医が仕事に意味を見いだす経験は、以下の6項目に分類されました。

1. 多様な健康問題への対応：症状がはっきりしない患者や、さまざまな病気の正確な診断など、幅広い分野の健康問題に対処すること。
2. 患者やその家族が抱える問題への包括的なアプローチ：病気だけでなく生活上の悩みにも関わり、複雑な問題を解決に導くこと。
3. 継続的な関わりにより築かれる患者との信頼関係：長年にわたって患者を診続ける中で、人生の節目を共有したり、人生のパートナーとして頼りにされたりする経験。
4. 多職種連携を通じた患者のサポート：医師だけでなく、多様な専門職と協力して複雑な問題を抱える患者を支えること。
5. 医療者や医学生への貢献：医学生や若手医師を指導する中で、彼らの成長に立ち会うことや、自らがロールモデルとなること。
6. 地域や社会への貢献：新型コロナウイルス感染症流行時の発熱外来対応や、住民向けセミナーの開催等を通じて、社会のニーズに応えること。

これら6つの項目は、患者との関わりに関するミクロな視点での4項目（1～4）と、社会や地域との関わりに関するマクロな視点の2項目（5、6）に分けられました。また、患者との関わりに関する項目は、個々が独立しているのではなく、互いに関連し合い、補強し合っている傾向があると考えられました（参考図）。

本研究は、日本のプライマリ・ケアの専門医が、患者の診療を通して自身の専門能力を高めることや、教育や地域社会への貢献といった経験を通じて、仕事の意味を見いだしていることを明らかにしました。これらの経験は、プライマリ・ケア医が、より充実したキャリアを築くためのきっかけになると考えられます。

今後の展開

今回の研究ではプライマリ・ケア医に焦点を当てましたが、今後は臓器別専門医や、ライフステージ毎の医師に焦点を当て、さまざまな立場で働く医師がより充実したキャリアを築くための研究に発展させていく予定です。

参考図

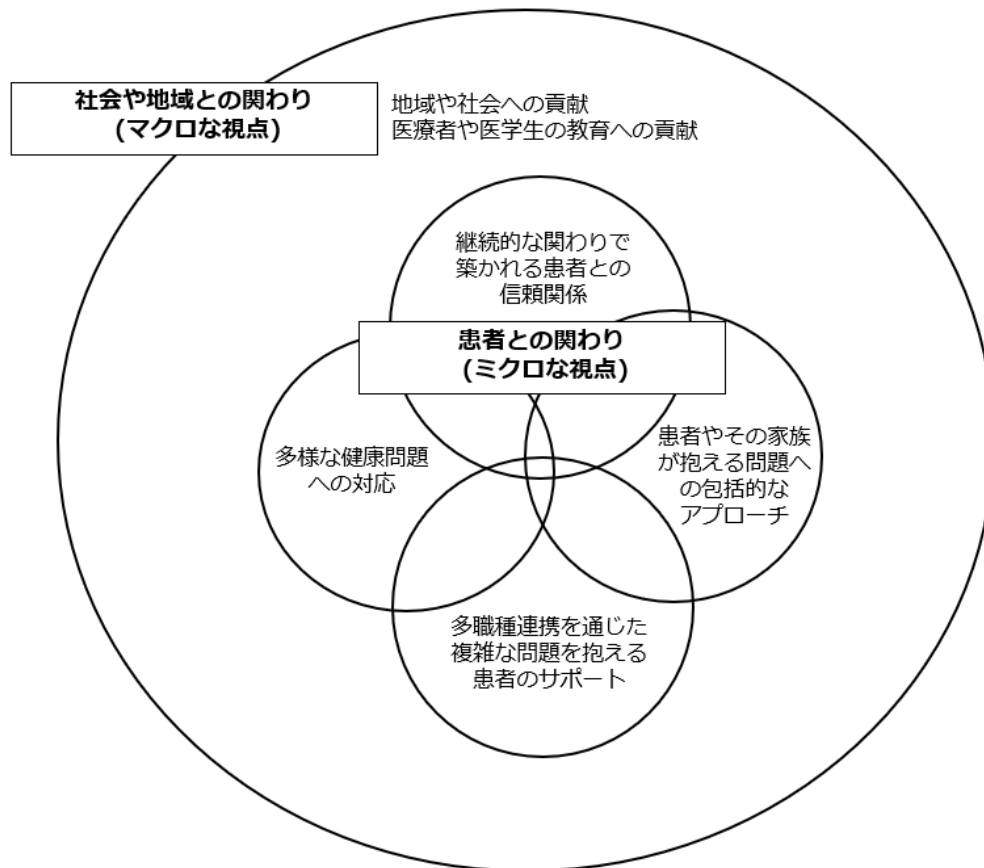


図 プライマリ・ケア医が仕事に意味を見いだす経験に関する項目間の関係性
インタビュー調査から抽出された6つの項目は、患者との関わりに関するミクロな視点での4項目と、社会や地域との関わりに関するマクロな視点の2項目に分けられる。患者との関わりに関する項目は、互に関連し合い、補強し合っている傾向があると考えられる。それらを表現するために、4つの項目の円を、中心で互いに重なるように配置した。さらに、このような患者への関わりを実践する上でのより大きな背景として、社会や地域との関わりに関する項目の円を外側に配置した。

研究資金

本研究は、JSPS 科研費 JP21K10297 の助成を受け、実施しました。

掲載論文

【題 名】 Meaningful work experiences of certified primary care physicians in Japan: A qualitative study.

(日本のプライマリ・ケア専門医はどのような経験に「仕事の意味」を感じているか: 質的研究)

【著者名】 Y. Yamamoto, J. Haruta, R. Goto, and T. Maeno

【掲載誌】 *BMC primary care*

【掲載日】 2025 年 10 月 28 日

【DOI】 10.1186/s12875-025-03026-2

問合わせ先

【研究に関すること】

山本 由布（やまもと ゆう）

筑波大学 医学医療系 助教

TEL: 029-853-3189

Email: yuyama@md.tsukuba.ac.jp

URL: <https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004208>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課

TEL: 03-5363-3611

E-mail: med-koho@adst.keio.ac.jp